

と結び加勢衆是が花増後の菩提所の弟子郎々金地
の箱香入と云々結の志をくし是も皮籠に入て山形へ引
取なり物部什物郎和尚の御供仕り茶師堂へ落着
仕度終しぬに志村九郎新園園情草荏九が在り
大勢をも押寄々故取物も取へん僧俗ともに以て方故り
くは遊々殊に危あく所々悪く焼れ前後を失ひ
大石田越きこの方格も打寄々々何くとも鳥五七羽飛
来り々々程あく百羽あり飛出れ和尚も不思議と思
ひし鳥次郎に出れ北口氏垣葉石通へ出玉へ着木を
立て東根北源氏坂を下り貴船神社若宮へ幡追鳥

八九羽見れども六月坂は通りの時かき一羽も又くは
やう楯居の時宗寺にて暫く休むとてし什物郎
たる坊主も一人も来りて夫より楯居寺を而立出なさ
れ飯田村の時宗寺にて彼の坊主共を御待なされども
什物郎の宿を今も又へされハ力りばこそ大石田村の
西光寺に落着き玉ふと言上るれは君を取て御尋には
花増安房守りハ如何有るそとさへハ義光臨陣已
後早速安房守山形へ出仕候はる義光宣ひる
余の者と違ひ其方天童に一族をれハ押免可な者
なれども一旦幼きしまされハ小國八千石其方此子息